

# ワールドカフェとオープン・スペース・テクノロジー (OST)

編集部

## 1 ワールドカフェ

ワールドカフェは「カフェにいるときのような気軽な雰囲気」で話し合いをするためのワークショップ手法です。4～6人に分かれてテーブルを囲み、組み合わせを替えながら対話を積み重ねていくうちに「全員と話している」ような効果が得られるよう設計されています。各参加者が対話の中で「気づき」を得ることが主な目的です。

### (1) ワールドカフェの実施方法

#### ①「問い」の共有

対話のテーマとなる「問い」をファシリテーターから発表します。



#### ②テーブルごとの対話 (20～30分) × 3回

各テーブルで「問い」について対話を行います。その後、グループと問いを変えながら対話を3回繰り返します。

### (2) ワールドカフェのメリット

- ・一般的な会議では参加者が順を追って発言するため、人数が多くなるほど一人あたりの発言時間は限られてしまい、発言内容も表層的なものになりがちですが、ワールドカフェでは少人数ごとに分かれて話をするため、一人一人がリラックスした雰囲気の中で本音を伝えやすく、テーマについての対話を深めることができます。
- ・結論を出すことが目的ではないので、「落としどころ」を探る必要はなく、自由な発想を表現することができます。
- ・他者の話を聞くことに重きが置かれるため、相互理解が深まります。
- ・各テーブルに司会者やまとめ役が不要です。

### (3) ワールドカフェ成功のポイント

ワールドカフェに対話を導く司会者はいないため、対話のテーマとなる「問い」の設定が重要です。参加者の前向きな気持ちを引き起こし、「自分ごと」として考えたくなり、新たな発想を促すような「力強い問い」を用意することが最も重要です。

#### ≪「問い」の例≫

ワールドカフェを活用した先駆的事例と取り上げられることの多い「イマジン・ヨコハマ」(42ページ参照)の500人ワールドカフェでは、次の3つの問いについて対話が行われました。

- Q1 『ヨコハマ』の何がわたしたちをひきつけるのでしょうか？
- Q2 50年後、大空からヨコハマを見ると、どんな人がどんな表情で、何をしていますか？
- Q3 未来のヨコハマは、わたしたちに、どんな一歩を踏み出して欲しいと思っているのでしょうか？

## 2 オープン・スペース・テクノロジー (OST)

OSTは、課題についてのプロジェクトや討議テーマを参加者が自ら提案して仲間を募り、ミーティングを行う中で、プロジェクトを創出することのできるワークショップ手法です。参加者の自発性を喚起し、主体的な発案・対話や、ワークショップ終了後の行動を促します。

### (1) OSTの実施方法

#### ①目的を共有

参加者全員で円になってOSTの目的を共有します。



#### ②参加者がプロジェクトのアイデアを発表

アイデアを提案したい人が円の中心に進み出て、紙にアイデアを書き、読み上げ、壁に貼っていきます。



#### ③参加者がプロジェクトを選択

アイデアの提案者以外の参加者は、自分が取り組みたいプロジェクトを選び記名します。



#### ④プロジェクトごとにミーティングを開催

プロジェクトごとに時間と場所を決めてミーティングを開催します。



#### ⑤OST終了後、各参加者がプロジェクトを実施

次回ミーティング日程や連絡方法を決めて終了です。

### (2) OSTのメリット

プロジェクトや討議テーマを参加者自らが提案するため熱意にあふれた対話生まれ、ワークショップ終了後も自発性に基づいた活動の継続が期待できます。

### (3) OST成功のポイント

OSTでは自発性を最大限に引き出すことが重要となるため、④のプロジェクトごとのミーティングに参加している最中に、自分が期待した内容と違うと感じたときは躊躇なく席を立ち、別のプロジェクトのミーティングに移動することが推奨されます(移動性の法則)。

#### (参考文献)

香取一昭、大川恒『ホールシステム・アプローチ』日本経済新聞出版社、2011年